

1. DDVP(dimethyl-dichlorovinyl phosphate) は農業および衛生殺虫剤として発展してきたが、近年燻蒸的使用が考えられている。数種の製剤形態につき繊維防虫への利用の可能性と使用上の注意事項を明らかにせんとする。

2. 実験容器はボール紙製洋服箱(内容約 15l, Al ホイルで裏打), 実験条件は 25°C, 75%RH。試験昆虫はヒメカツオブシムシ幼虫。ガラス皿に羊毛糸約 50mg, 虫 10 匹を入れ, 薬剤とともに容器中におく。7 日ごとに食害量, 死亡率を測定し, 効果消失まで続ける。容器は空, あるいは布(キュプラ)収容で実験した。

3. 容器空と布収容とで大差がある。概略を防虫有効最低薬量を以て示す。

(1)DDVP 原体: 布なしで 10mg, 布ありで 16g, (2) DDVP 調剤品 a. Vapona strip: 板状合成樹脂スポンジ, 16%含有, 本来カ, ハエの駆除に使われる。適当に切って実験し, 布なしで 0.2g, 布ありで 40g, b. Panaplate: 性状, 効果 a とほとんど同じ, c. Atgard: 本来ブタの駆虫剤, 20% 含有の粉状樹脂, 布なしで 0.1g, 布ありで 8g, 差が前 3 者より小さいのは蒸発表面割合が大きいからと考える。これらの効果持続期間は約 4 カ月であった。薬量は容器容積によって調整できる。

布の有無による有効量の大差は薬剤の繊維吸着によると考えられる。キュプラ以外の繊維については実験中である。